

令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：渡島地区
- 2 事例報告学校名：知内町立湯ノ里小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 佐藤 強
- 4 キーワード：地域と連携・協働した教育活動の推進

1 はじめに

本校のある湯ノ里地区は、知内町本町から約10km西方の内陸部に位置し、中央部を知内川が流れ、豊かな山村のたたずまいの残る落ち着いた地域である。青函トンネルの北海道側出入口の町としても知られ、戸数は約200戸、人口約500人であり、過疎化少子高齢化が進んでいる。

本校は、開校128年を迎える歴史と伝統ある学校である。現在、複式小規模校で、児童数は7名。また、平成26年度からコミュニティ・スクールとして、地域とともに歩む学校づくりを行っている。地域の学校教育に対する意識や関心は非常に高く、学校に対する期待も大きいと受け止めている。学校運営協議会を中心として「地域とともに歩む学校」として、学校の目指す子ども像を地域に発信し、連携・協働して様々な教育活動を展開している。

2 学力向上の取組

(1) 音読五十三次

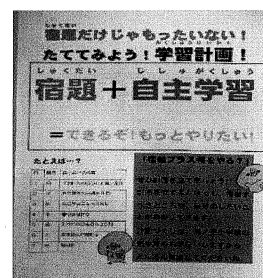
本校の特徴的な取組である「音読五十三次」がある。通学路に立つ「地域見守り隊」の方々へ登校途中の子どもたちが、物語の一節を声に出して読む取組を実施している。読解力向上、人前での発表の機会創出、地域の方々とのコミュニケーションの場となることをねらいとしている。

この音読に取り組んでいることで、文章を読むことに対する興味関心も高まり、各教科等でも、自分の考えをまとめて発表する（表現する）ことにも効果が表れている。また、図書館の利用も多く、本を読むことを好み、自分が読んだ本を紹介する「読書集会」の活動にもつながっている。



(2) 家庭と連携した家庭学習の取組

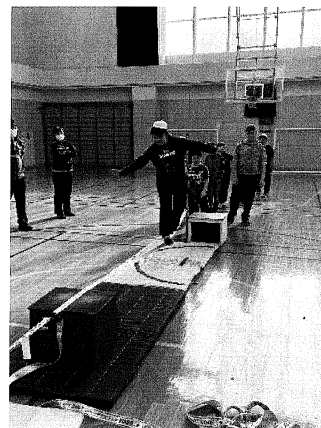
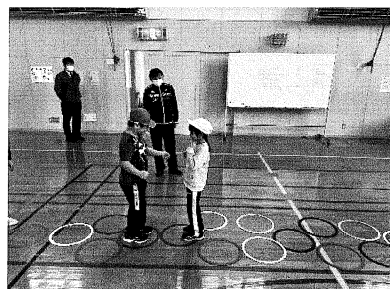
家庭との協力体制のもと、家庭での学習方法を提示し、基礎基本の定着を図り、進んで「自主学習」に取り組む児童を育てることをねらいとしている。取り組んだ成果は、「家庭学習の木の実」として掲示し、意欲化を図るとともに、模範となる家庭学習も掲示し、他の児童の参考としている。



3 体力向上の取組

(1) 基礎運動能力向上の取組 SAQ

知内町教育委員会の社会教育主事の協力により、子どもたちの基礎運動能力の向上を目指し、月1回のトレーニングを全校体育で実施している。Speed(重心移動の速さ)、Agility(運動時に身体をコントロールする力)、Quickness(刺激に反応し、速く動き出す能力)の頭文字からSAQと呼んでいる。遊び要素がふんだんに盛り込まれており、子どもたちにとって、楽しいものになっている。次々と種目が変わっていくので、楽しさが持続し、その中で運動能力が向上していく。指導員のテンポの良い指導に子どもたちも魅了され、毎回楽しみにしている。その成果が、全国体力・運動能力、運動習慣等調査にも表れている。



字からSAQと呼んでいる。遊び要素がふんだんに盛り込まれており、子どもたちにとって、楽しいものになっている。次々と種目が変わっていくので、楽しさが持続し、その中で運動能力が向上していく。指導員のテンポの良い指導に子どもたちも魅了され、毎回楽しみにしている。その成果が、全国体力・運動能力、運動習慣等調査にも表れている。

(2) マラソン大会

毎年、子どもたちの体力向上をねらい、湯ノ里地区をコースとしたマラソン大会を実施している。その際にも「地域見守り隊」の方々に、各交差点で子どもたちの安全確保のためにご協力をいただいている。



4 地域とともに子どもたちを育む

(1) 花壇整備

自然に対する思いやりの心や日頃お世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを育むことをねらい、町内「シニアクラブ」のご協力を得て、子どもたちとともに花壇整備を行っている。



(2) 餅つき集会

餅つきを通して、日本の伝統文化を体験し、そのよさを学ぶことをねらい、町内「婦人会」のご協力を得て、餅つき集会を実施している。

昨年度は中止であったが、今年度は、内容を変更し、実施する予定である。(写真は令和元年度のもの。)



(3) 田植え体験・稲刈り体験

町内農家さんのご協力を得て、毎年田植え体験から、稲刈り、そして収穫祭と米作りの苦勞や収穫、食する楽しさまで体験させていただいている。



5 おわりに

本校は、小規模校であるため、地域の協力なしには教育活動が成り立たない面もある。従って、今後も学校運営協議会を中心とした地域の関係団体との連携・協働を強化し、様々な課題に対応していく。そして、変化の激しい時代の中でも、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育むため、地域とともに歩む学校を今後も更に発展させる。